

梶川 克哉 (Katsuya KAJIKAWA)

学位：博士（文学）

略歴：名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本文化専攻 博士前期課程修了

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本文化専攻 博士後期課程満期退学

専門分野：日本語意味論、日本語教育

研究課題：日本語の複文表現、意味分析

【論文】

- ・「現代日本語における『散歩』の意味分析」（名古屋大学留学生センター『日本語・日本文化論集』第16号, 2009. 3）
- ・「『働く』の意味分析」（名古屋大学国際言語文化研究科『言葉と文化』第11号, 2010. 3）
- ・「動詞『おす』の意味分析」（名古屋大学留学生センター『日本語・日本文化論集』第17号, 2010. 3）
- ・「『～がてら』の意味分析」（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第10巻, 2010. 5）
- ・「『目的』を表す『～ために+移動動詞』と『～に+移動動詞』の比較」（関西言語学会『KLS Proceedings』32, 2012. 6）
- ・「複文表現の意味的カテゴリー——『目的』『付帯状況』をめぐって——」（名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士論文, 2012. 9）
- ・「『XはYでありながらZ』で示す主体属性との非親和性」（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第13巻, 2013. 5）
- ・「『目的』と『原因』を表す『～ために』の意味的共通性」（関西言語学会『KLS Proceedings』33, 2013. 6）
- ・「『逆接』と中心性」（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第14巻, 2014. 5）

【口頭発表、その他】

- ・「中国人学生とのかかわりを通じて」（愛知産業大学留学生別科特別講演, 2006. 10）
- ・「『～がてら』の意味分析」（日本認知言語学会第10回大会, 於. 京都大学, 2009. 9）
- ・「『目的』を表す『～ために+移動動詞』と『～に+移動動詞』の比較」（関西言語学会第36回大会, 於. 大阪府立大学, 2011. 6）
- ・「『～ながら』で示される事態の構成要素的解釈——『～つつ』との比較を通して——」（日本語文法学会第12回大会, 於. 東京外国語大学, 2011. 12）
- ・「『目的』と『原因』を表す『～ために』の意味的共通性」（関西言語学会第37回大会, 於. 甲南女子大学, 2012. 6）
- ・「認知言語学的カテゴリー観に基づく複文表現の意味解釈——『～がてら』を例に——」（日本語教育国際研究大会, 於. 名古屋大学, 2012. 8）
- ・「『XはYでありながらZ』で示す主体属性との非親和性」（日本認知言語学会第13回全国大会, 於. 大東文化大学, 2012. 9）
- ・「属性カテゴリーの周辺的事例を示す『～ながら』」（日本語文法学会第13回大会, 於. 名古屋大学, 2012. 10）
- ・「『逆接』と中心性」（ワークショップ「百科事典的意味観の射程」日本認知言語学会第14回大会, 於. 京都外国語大学, 2013. 9）
- ・「日本語学校の学生」（高田短期大学教員研修会, 2017. 2）

- ・「名古屋 SKY 日本語学校の取り組み」（ライセンスアカデミー研修会基調講演，2018. 2）
- ・「メンタル・スペース理論に基づく『ために』と『ように』の考察」（日本認知言語学会第 19 回全国大会，於．静岡大学，2018. 9）

【所属学会、その他】

日本語教育学会、日本語文法学会、日本認知言語学会（2017 年度より大会実行委員）

2018 年 4 月より国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」のプロジェクトメンバー（現在に至る）

【研究テーマ】

現代日本語における複文表現の意味記述が主な研究内容です。またそれに関連して、多義動詞の意味分析も行っています。いずれも、実際の用例から意味を抽出していく認知言語学的観点に基づくものです。この手法による意味の記述は、より実感に近く、日本語を外国語として学ぼうとする学習者への教育に役立てられると考えています。